
2024年8月19日

王子ホールディングス株式会社御中

CENIBRA における指標とターゲットの妥当性レビュー結果報告書

I 目的

本レポートは、王子ホールディングスの主要な木材調達先となっているブラジルの連結子会社 CENIBRA における森林再生活動や郷土樹種の植樹、緑の回廊の設置について設定された指標とターゲットの妥当性をレビューした結果を報告するものである。

II 対象プロジェクト特性の認識

CENIBRA は、植林事業を通じて原木を生産し、原木からパルプを製造・販売している王子グループの事業会社であり、王子グループが調達する木材のうち、30%以上が CENIBRA が管理する森林から調達されている。

また CENIBRA は、ブラジル ミナスジェライス州に拠点を置き、アトランティックフォレストと呼ばれるバイオーム内で 54 の自治体にまたがる約 25 万 ha の土地を管理している。アトランティックフォレストは生物多様性が高く、固有種の割合が高いバイオームとして特徴づけられている。さらに、CENIBRA の管理している森林は、Rio Doce 州立公園、Serra da Candonga 州立公園、Rio Corrente 州立公園の 3 つの州立保護区、南ペロオリゾンテ都市圏州立環境保護区 (APA) および 25 の市立保護区に隣接しており、CENIBRA 管理区域内では高保存価値地域である「マセドニア・ファーム」を管理している。この地域の一部(560ha) は、ブラジル環境・再生可能天然資源院 (IBAMA) によって私有自然遺産保護区(RPPN) として認められる。

以上の情報から、対象地域は、森林の保全、再生や生物多様性の維持・向上を目指す重要なサイトであると認識される。

III レビュー対象と方法

弊社は、王子ホールディングスから TNFD レポート 2024 の提出を受けて、同レポートの記載事項に対して、TNFD のガイダンス (Guidance on the identification and assessment of nature-related issues: The LEAP approach Version.1.1) で推奨されている内容に照らして妥当なものかをレビューした。

また、弊社は、TNFD レポート 2024 に記載された計画数値などの実現性を検討するにあたり、根拠資料や過去の実績など必要に応じて、追加資料を聴取し、追加説明を求めた。

IV 指標とターゲット

王子ホールディングスは、対象プロジェクトにおける自然の状態や依存、インパクト、リスク、機会について、2つのシナリオを用いて2030年、2050年の評価している。王子ホールディングスは、評価結果を踏まえた対応として、以下のようなアクションを行っていくことを掲げている。

a)回避

森林破壊の回避

b)削減

気候変動の緩和、保全林の設置・水源保全、貯水池の設置や土壌の鍍入れ、火災防止や侵略的外来種の防除

c)再生・回復

森林再生、緑の回廊設置、絶滅危惧種の再導入

d)変革

各種認証取得、新規制への取り組み、モニタリング技術の開発、社会活動・地域社会とのコミュニケーション活動

王子ホールディングスは、これらリスクと機会の評価結果および社会への著しいインパクトを考慮して、「回避、削減」を可能な限り実施したうえで、「再生・回復」の活動を拡大していく方針とし、具体的に3つの測定指標とターゲットを設定している。

測定指標	ターゲット
1) CENIBRA が所有地内で再生した自然林の面積	2024年から2033年までの期間に3,000ha以上
2) CENIBRA が所有地内で植栽した郷土樹種の本数	2024年から2033年までの期間に50万本以上
3) CENIBRA が所有地外で設置した緑の回廊の面積	2024年から2033年までの期間に3,500ha以上

V レビュー結果

前記の前提を踏まえて、指標とターゲットに対して、以下のレビューを行った。

・測定指標とターゲットは、具体的で測定可能であり、期限も設定されていることから、TNFD7.5.2で説明されている目標設定推奨内容に整合していると考えられる。

・各測定指標及びターゲットについて、

1) に対して

3,000ha は CENIBRA 所有地全体の 1.2%相当であり、また CENIBRA が 2019 年から 2023 年までに年平均で 300ha 以上の森林再生を行った実績を根拠としており、達成可能でリーズナブルなターゲットであると考えられる。

2) に対して

CENIBRA は、過去、40 種類合計 60 万本以上の郷土樹種を植栽してきた。また、2019 年から 2023 年までの年平均では 5 万本以上であることを根拠にしており、達成可能でリーズナブルなターゲットであると考えられる。

なお、付言すれば、郷土樹種はできるだけ多くの種を用いることが望ましい。

3) に対して、

CENIBRA が 2019 年から 2023 年までに所有地外で設置した緑の回廊の面積は年平均で 350ha 以上となっていることから、達成可能でリーズナブルなターゲットであると考えられる。

VI Remarks

自然林の接続と緑の回廊の面積の関係性についても積極的に情報を公開することで、ターゲットの面積設定の客観的評価を受けることが期待される。これらの再生や植栽等の活動による森林の分布状況の変化について、今後の開示において、情報を付加されることが望ましい。

最後に、今後のモニタリング結果を踏まえ、ターゲットに満足せず、さらなる森林再生・回復にも努めることを期待したい。

以上、国際航業は、王子ホールディングスの対象プロジェクト及び TNFD レポート作成業務には一切関与しておらず、独立した第三者の立場で報告する。

国際航業株式会社

環境保全部

鶴間 亮一